



野叟獨語

單

洋学文庫
文庫 8
C 224



野叟獨語

一

7



野叟獨語

兼好法師の馬ふとよもまは後ふくまは是成之とまは他人
の味ふも成也又先とよまは狗阿之と地籠し或取籠の手に用也
我兼法師に白ひ自分同を記し先生とよまは教りやも
そ知前とよまは陰とよまは抑我國二百年法業



東照宮御一統の法大徳小よまは四海を平小治我も小先祖より兼
兼好法師の治法を載き我祖文も祝も安徳小生流を送我
し又そ平小生れ同くは年月の老を樂むむるふれふ及ふるは
其小法をくは 所國恩を教む思ふ可く統ふ世のくはは
淨少く今果る近何ふ是か于文胤寒の患を志す以英舎小能
き皇後をくは兼好風流小日を送りかる強き事と亦忘ま代
兼代も世とよまは思の上まくよまは下姓氏小る近二代も代も



安楽小善せしとて方計也近來の世は不具しく世の中は
子治り小く人々は成り成り思ふより人底りまで
年々天変地妖をふり事多し其由

京都大火棟喜をよめる
大佛天王寺雷火をよめる

愛宕住吉焼失をよめる
象深臨をよめる

天草小島をよめる
滄安をよめる

子供争い合戦に似る事
猫多く死て嵐野をよめる

荒抄をよめる
黒三本天小海をよめる

天狗松折る事
大板小白をよめる

所白書院大木折る事
蛙合戦をよめる

雲海寺の松折る事
氷川明神様をよめる

蜂集る事

一石橋に蜂をよめる事

九月十七日東西法王大雨雨大木茶人家小倒る事

日光御堂に大荒をよめる

世外一々をよめる事
是皆天より人小成敗よとのは知らせぬ

一統をよめる事
是小成敗先懐へるの時とよめる事

庸小国家が真心有禎祥国家が必も妖孽ありて是

を思ふ事
冥小魂も消心もはたする世をよめる事

五世の多難を情の若始りて終る死生是皆何れも是成道

る事
我もまや老善し修をも志す身もこれ余の惜も

い事
中にもかく是世全盛極の世の多難も是也

惜しき事
少もかく他は命も不仕命も人の義む孫子多く

蜻蜓群る事

慧星の事

若くはさきしは小徳の宿意小者きしゆりしきも小徳小徳のいしきし
と侍のいしき扱炭碯小るも市約遠交りし情くまを名小く去秋高
才惟夫西小諸鶴下孔をしし事之是事情の通をるは遠小出る
るゆりしし然とも五丈庸俗の類に事細の事せり無一はは遠交
の扱小のいしき得もくし言物を持来せし使小空しくは遠交は夫
秋分りし大国下對しは是れ小扱小中彼を是とせし世世北と西と扱小少
ゆりし是を儀志の海と事ゆりしし我々の人ら海を扱せりゆりし
他くいのかのゆりし天の時北の理小さや地の理小人の和と云ひし水
まはゆりしゆりし我人心小扱せりゆりし大物のゆりし物高るゆりし魯西
亞扱小交易の儀も許ししき事小ゆりし殺般の扱と白き言しゆりし城
せし中を實ふ實いしゆりし人々中喘りしゆりし 所よりし事扱ゆりし廉立
るゆりしは交易一通の形を小く扱小疾小海扱せりしは福ゆりしゆりし是

只小徳流を退け人まをりし見ゆりし一付のは流とて志あて扱せし
實心秘めしゆりし世の人ま後志意るゆりし心のゆりしゆりしゆりし
静是ゆりし小扱ゆりしゆりしゆりし 問曰其魯西亞とせ我々の大府ゆりし
所せしゆりし名醫の事病を治ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし
ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし
まはゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし
必しゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし
抑魯西亞国とゆりし市理設新箇末西ゆりし芳ゆりし王國ゆりしゆりし尚時を
四五代ゆりし英主へテルテゴトゆりし男近國を切後ゆりし國を中興しゆりし
執成小ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし
已に既地とゆりし遠小徳方の帝位を履ゆりし今時世界中ゆりし漢國ゆりし大邦
とゆりしゆりしゆりし人實文ゆりし小生まゆりしゆりし子保ゆりし初は遠交ゆりしゆりし

あつてもつと之想てよ成るやい兼兵の風俗小あふ人信少して信長守
分亦の委小長一多く郡中時の亂小あかし友をまの古志の風俗は後
中へ皆高申復利多う渡りて城一年切の着書小若下は志中へ
依りて示はるゆきと之府之人も危き依りて之をいふは之の乱は
おの軍役をす持人も人殺すまして我場下向ふ時自身陸軍の擔行
より和らふへうは殊小夫くろの殺は揚まはしう揚屋人して俄小室
集めたりとま筆も法い小兵玉の音も甲申戌年廿二人とて
ゆもあきるゆきと相持る用小室屋より然はは語中へも信長
人馬小用小室より時とて之へ逆兵相小形めさすして百姓の強きと
は年所の事申一少て或は戌年一馬馬せし馬殺さくともせは
志強きせし之然實の而是ふとてるを事いひくは晋西無
学小室の城操練一其志は若く人少て云く血を流すは之年中して度

少し毎夜子懲せし難靴中も切務法胡も我いし之信胡の英とと
呼まし一虚照帝も殺度軍兵城盡しし合戦一揚夜終る不定法は其
志の少小退屋一遠一和儀を薄一難靴の志境運送といふ西小分
界をまきと死の恨りしと今いふ小室易をゆい之信は兵と殊小流
りしゆ友さしとの虚照帝さし石の形勢とあち之然は右のやく老慮せ
一我志の弱兵城に志強兵小揚句い合戦世人もあはらうともや其志の赤
一初めぬ人の軍に格別険山より手痛く合戦も多し元孫自小あつて我
固兵小及ましと申傳る今もゆきとや何ゆい志は長めは之の武風運兵か
ましたまはまき今兼弱運極の世小む偶苦相流を望ましとてゆきと
らくいして小成るゆきは是の若くあはらうまき少てま折る自由なる成あ
志まし助骨のまきとてる小分元孫まきとてるあはらうとて是又故と
るの揚といふ一能く彼と志と成若合するをゆきとてあはらうの時なるあ

情を知りて折るべきの宜き實は且ふを實情も勿しきる人愈破
之命小也つらう又小境の志とも思ひ企しつらうは海より氷解
く後通致も勿し其まの海海小洲をさる事人と土地の葉用とん
とくお小耐くは名氣を人をは撰むつらう先彼地力にシヤカ止とを
彼地は和流も通じらるるをさういふは若きさうは小対活同をく破く
其情をばれく扱彼を市に能けり扱き薄息を凍滞し物多り勿しを
む返りて是迄のゆは小事情の通せらるるを以て遠のらるし其地城兵
別し今く 御成威のふ計は小河成河二先交易成條たきとものべ
通兵能調ゆるも彼も是迄城をて航事愈言文稱を流の通せらるるを
海送し且宿航の成就を喜ぶしと述ぶる海下は其交易の海事
強りの流小振はき春秋の情多急是知ゆるまふ又年経る肉中をを
く如所の雜歌をゆきも汁まき其計を子切の一案合戦かふ



力業中より策もまきと述ぶる左も小業控すは近年中より小大民を
才の軍兵を調練し是迄の風俗もは改らぬ事所まきと為獨り成り
其附にシヤよく攻事ともし彼を防くるゆはとく一課もふともは諸利
とほりもふきと中を、無弱の時勢を棄て世を救ひぬる事のはは通系
てまけく重易の城は免とぬはは地厚のやうなまきともは時世の思ひ
きわめし

又同日彼もよき己小方先を合軍しむとふらるるもはさうや
蒼白中事小まきゆはは初を我を奪ふとのか鹿とも思ひ是は我
部は赤き小ゆりくは業作平和の教業院を合軍厚の大地をまきゆは
止も愛まの名言くは小強羅也といふ大伽藍を少くは長き時止る事所
其中魯西亜下餘年来洋城のふとくは後通後せらるる今も其東
山カムカといふ所止小は先途不地部と隣境もいふゆはとふとふらるる

世一徳峯師史別派といふ事小足る事なく然る大國より朝鮮の情状を
其後兵威を以て進めしむるに足らざる事後我部百餘の兵を以て小
く後海小其後近中修二次地といふものなり其持の兵を以て
音言より大なる砲出るといふ兵忽ち命を以て左小大兵の海軍に始
心得軍兵とも恐怖し一雨小放軍し朝鮮の公道初なる戦小悉く
遊遊し中水は流ししるる魯西東ともいふ事なく戦地海の流を以て
兵を以て少の兵の便利なり其後何れも去りて又軍法全戦の極に在
の管便捷地のゆかりなり其の難も去りて海軍の極に在りて戦地
重なりは是れ其の事なり其の事なり一雨小放軍し一雨小放軍し
春秋の風俗に世に少くは流ししるる魯西東ともいふ事なく戦地
は餘全戦の極に在りて海軍の極に在りて海軍の極に在りて海軍の
掛りし事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

事々年々く事々事々く戦地なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
軍法全戦の極に在りて海軍の極に在りて海軍の極に在りて海軍の
一雨小放軍し一雨小放軍し一雨小放軍し一雨小放軍し一雨小放軍し
分小なる事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
上なる事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
在りし事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
戦地なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
ても及ぶ事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
事々く戦地なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
事々く戦地なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
上なる事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
事々く戦地なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

下身改る事

問曰作のむ小生くは然る重易は祥をくの後其の兵氣三三の
既而何くくは也

善白是始中中自の法改め

東照宮の法達例小生士の不用意成古高慶との好き成其の成
新田茂と 上意の法存其のやく多場而少やく難なる事上
小も中自の法成と 皇目之成は改革を極むは法用之に極小
成法成調中やく先手の前は法用之に用之成法成
多調の勿傷之然小生代めはる種々の法成やく 成法成多は法成
小成の法成之を後 法成代小成の法成 系成の法成と始免成
成法成之法成成他は法成成其の成法成の成法成 傳之
何い之と成法成之を成法成之成法成之成法成之成法成

減く補之これに國成を成法成之成法成之成法成之成法成之
ふくく一も成法成例古成と宗として其成法成を成法成之成法成之
る成法成其成法成を補之と極小成法成を成法成之成法成之成法成之
令成法成令成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之
仕向成法成 上上に成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之
人成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之
是成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之
く小成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之

東照宮古成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之
二枚成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之
有法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之
近以成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之成法成之

月日は同じく人並に暮れゆく事なく又くを如る法にのまらざる
成程の事少く多き中相師の名をりし何の角を法とすし少男に神
小結まじりてをりし能く心筋骨の固まる為小今の事と小少少の成
く任付りしも他小いりぬゆゑと何の角を相成る事と通成たる所人
くも小高貴なりと暮るも神成たる事と係是と人ともも
かく一人の友を癒ふにまじりて牙揃へて回金なりしも又まじりて
是とも心づく山川を平然と流すに淋くも淋く可成之事を能く小成
はるる事と小玉初めは所成之者なりと成りて中とまじりて又まじり
と成りて新地を築きし事なりと今二千三百に所成之者なりと成り
中をくる小も人小今を成りて誰くも法世なりと成りて何の角を相成
人の好む事なり新製の名成たりと一人の床小くも小仕掛自能と名
に増長し今の日と成りてなりと成りて是なりと成りて淋くも淋く成りて

たのこ

清為代の他ともふと法芳の江戸の海と成りて何の角を相成りて左平儀
時に宇氏と名りしと風俗なりと成りて何の角を相成りて今人の
客と止むるの一策なりと成りて何の角を相成りて成りて何の角を相成り
者佐院標の江戸に成りて小結を名に何の角を相成りて何の角を相成り
よて成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成り
に成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成り
も成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成り
若事成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成り
法長久と成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成り
斗りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成り
成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成りて何の角を相成り

身お無小少量の若友深魚を係いせしもの大名と云はれし生きたり身
友族人の不及雨のり管も生し其人を以て金用と抱子くは定りぬ如
後交との之位上りて其人物くはあをきと事とぬ之是は法人小は并
人々呼ぶ水く及或は海望とぬ人も生し其人の分名もあ思密
討仕を名は仕りて自然と知事と云い人もあ分りて中其月の人
を多記す小は定り格で方生身物と云も川深小のりも生しは徳代格で
と事小生し和族の若少もを攝法用におおき名は撰天と云い何小
も四契大あはり玉家は長久の比計ゆりて記との之既小
大猷院格の時以て実々系中合致小は敬討仕を花左進也思分と云
夜語のほあも小と名し例しきし流や或百年未を家法小思和族の若
少も其子孫としてて事獲失心候かもきしああふ苦候と云ぬ之若
は及雨の志斗小生し和族小は家無事と云り時古てと云は安小は筆格也

万治小堀田上無分格多き急物と云系 上のは為小は身也上り小
今法徳代の大由名代は口厚恩を系分りて法徳の時世をん分りて何の
り管も生し亦常小は族の百姓の育ゆてけし其作をく未穀の収納
を以て名を極免世の初代も名との思ひつらりて口を系し法徳
治へ身を格くもぬ名を中分りて少人分りてもふすは家末世
と中分りて流し世の中格くや我老老と云思ひつらりて思
ぬ心の内いり
右徳院格の時代も既小七十年未世の嘉治長し上流流りて善る
城法くし海免格の内小進来の天変地妖魯西亜の沙法を以て実小
夜の月も麻らまはれ然として我亦やきあものやのゆと云い何れも
去成石と云他と云と云罪成流りて目の筋向く左もかゝりても氣違ひ
のりて右も人も有り

有住虎塚の山下手内とせし浪人ありやせしものまじりたる
昔とて若くは昔もふりし今も時代も替りしものまじりたる
きや罷成りん系を厭はまじも枉ませしと孔をよみ取
はまじり強き好まじり心もふりし只是下と我に限るべきをどの
況ん合ふまじり後肉のを難を難といふさかきを止む必し化人
小波をふりしと治れし夜ふりのとみふり

梅スルニ是若州侍醫タリシ杉田鷲齋ノ著ス所ナリ鷲齋名望一時ニ
高カリシ其技ニ善キノニ非ス是書ヲ見テ其為人ヲ想フニ然ル
近世殿酉流ノ阿諛承順シテ人歡心ヲ失ハシマラシク恐ル者ヨリ見ハ
必ス無用ノ教員言ナリトシテ嘲リ晒ハルヲアラシ又別ニ影ヲ聞
答ニ卷ヲ上梓ス世亦人ニ乏血アリ

